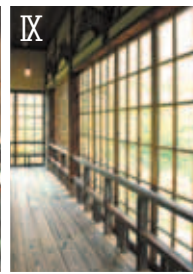


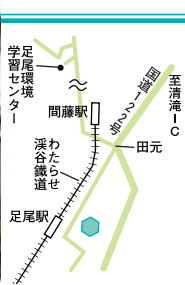
近代建築探訪

栃木で楽しむ知的レジャー

VIII 古河掛水倶楽部



VII 明るい光が射し込む応接室 **VIII** ゆがみや傷が味わい深い当時のままの窓ガラス **IX** 緑がまぶしい開放的なテラス。窓上はステンドグラスに **X** 国産で最も古いビリヤード台が2台置かれた撞球室 **XI** マントルピースやドイツピアノなどが置いてある食堂。足尾焼のカップで香り高いコーヒー(350円)も楽しめます
 参考文献「栃木県の近代化遺産」(編集・発行/栃木県教育委員会事務局文化財課)



【古河掛水倶楽部】
 日光市足尾町掛水2281
 入館料/大人300円、小・中学生200円。土曜・日曜・祝日の午前10時～午後3時開館(平日は事前予約)。12月～3月は休館
 ☎0288(93)2015〔平日は古河機械金属☎0288(93)3255〕

栃木県内に残る、明治・大正・昭和戦前に建てられた近代歴史遺産スポットを紹介するシリーズ「近代建築探訪」。8回目は、かつて足尾の迎賓館として利用されていた、日光市足尾にある「古河掛水(ふるかわかけみず)倶楽部」です。



わたらせ溪谷鐵道「足尾」駅前にたずむ「古河掛水倶楽部」。足尾銅山の隆盛時、銅山を経営する古河鋳業(現・古河機械金属)が、「鉦都足尾の迎賓館」として華族や政府高官の接待や宿舎に使っていた建物です。明治32年に建てられた旧館と、大正元年に増改築された新館で構成。外観は洋風、内部は和洋折衷の木造建築で、素朴ながら気品漂う建物です。

建物見どころについて、工学博士で小山高専名誉教授の河東義之さんに伺いました。

「正面はイギリスのネオ・ゴシック期に流行したハーフチンパー形式を採用し、すっきりとした軽快な印象の2階建てです。それに対して背面は、全面ガラス張りになった木造2階建て部分と石造りの地下部分とが組み合わさり、力強く勇壮な表情を見せています。この正面・背面の異なる趣が、この建物の面白さだと思います。」

館内には、存在感漂うマントルピースや1924(大正13)年製のドイツピアノ、国産第1号のビリヤード台など、貴重な品々が多数あります。また、古河鋳業の創始者・古河市兵衛や、市兵衛の終生の友・渋沢栄一の緑の品も数多く残されています。また敷地内には、緑の美しい庭園や、「銅山電話三三資料館」「鉦石資料館」なども、平成18年には、国の登録有形文化財にもなった「古河掛水倶楽部」。現在も、古河機械金属の福利厚生施設として活用され、土曜・日曜・祝日には一般公開もされています。当時の足尾の栄華をしのげながら、静かに時が流れる場所です。

I 白を基調とした正面外観 **II** 木造平屋造りの旧館 **III** 正面と異なる趣を持つ背面 **IV** 東屋として建てられた八角堂。ここからの紅葉の眺めは抜群 **V** 正面外壁。1階部分はイギリス下見板張り、2階部分は漆喰仕上げに **VI** 正面玄関からの眺め。中央奥に見えるのはレンガ書庫